

「教育臨床総合研究 6 2007研究」

児童生徒からみた優れたティーム・ティーチングと少人数学習

Small Group Teaching and Team Teaching in Japanese Primary and Junior High Schools: A Report of 2005 National Survey for Students and Pupils.

高旗 浩 志*

Hiroshi TAKAHATA

山 崎 博 敏***

Hirotohi YAMASAKI

西 本 裕 輝*****

Hiroki NISHIMOTO

藤 井 宣 彰**

Nobuaki FUJII

須 田 康 之****

Yasuyuki SUDA

水 野 考*****

Kou MIZUNO

The purpose of this article is to investigate the efficacy of "Small Group Teaching" and "Team Teaching" from students' and pupils' point of view. We conducted national survey in 2005. Students and Pupils evaluate more positively small group teaching than team teaching, and junior high school students evaluate small group teaching than pupils.

キーワード：少人数学習指導 ティーム・ティーチング 学級編制 学級教授組織 小集団

I 研究の背景と目的

1959年度以来の数次の教職員配置改善計画政策と義務教育標準法によって公立義務教育諸学校の学級規模は縮小し、1990年代初頭にはほぼ40人学級が実現した。その後、学級規模縮小は断念され、「指導方法の工夫など個に応じた教育の展開」という角度から定数改善が図られた。第6次計画（1993-2000年度）ではティーム・ティーチング（以後TTと略称）が導入され、第7次計画（2001-2005年度）では、基本3教科（小学校では国語・算数・理科、中学校では英語・数学・理科）での少人数学習が導入された。

伝統的な授業方法は、HRを基礎にした一人の教員による一斉授業であるが、近年、教授方法や学級教授組織が多様化しつつある。

TTは、HR内での複数（通常2人）の教員による教授である。次の図に示すように、教員の組み合わせには様々なものがある。

*島根大学

**広島工業大学非常勤講師

***広島大学

****北海道教育大学

*****琉球大学

*****広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

少人数学習指導は、HRを必ずしも前提とせず、場合によっては、HRを解体し、HRとは異なった習熟度別、テーマ別あるいは能力混成の学習集団を編成し、個に応じた指導方法を実施する。少人数学習集団の編成方法には、HRを解体する／しない、等質集団／習熟度別集団／テーマ・課題別集団などの方法があり、少人数学習指導を行う追加的教員にも常勤／非常勤などの選択肢がある。

はたして、このような新しい授業方法は、どのような教育上の効果があるのだろうか。また、伝統的一斉学習指導や、HR自体を小規模化するのに比べてどのようなメリットがあるのだろうか。

われわれは、このような問題意識のもとに、2004年末に全国の小中学校の校長と教員に対する「学級規模と少人数教育に関する調査」をおこない、さらに2005年末から2006年3月までに「少人数学習・TTと家庭での学習についての児童生徒調査」（以後「児童生徒調査」と略称）を実施した。

本稿では、この児童生徒調査のデータを用いて少人数学習とTTに対する児童生徒の受け止め方を分析し、最終的には少人数学習とTTの優れた教授方法を考察したい。

ティーム・ティーチング

少人数学習

ホームルームの規模縮小

教師 2人 児童生徒40人 ○ (主) ○ (主又は補助又は個別指導)	教師 1人 児童生徒20人 ○ (担任)	教師 1人 児童生徒20人 ○ (専任・専科又は非常勤)	教師 1人 児童生徒20人 ○ (担任)	教師 1人 児童生徒20人 ○ (担任)
---	-------------------------	---------------------------------	-------------------------	-------------------------

少人数学習集団編成の方法

- (1) HRを解体か分割か
- (2) 等質集団／習熟度別集団／テーマ別等

II 児童生徒調査の概要

2005年11月末に4つの道県の教育委員会と学校の協力を得て公立の小学校58校と中学校29校で質問紙を配布し、2006年3月下旬までに回収した。対象者の属性は表1の通りである。

表1 調査対象校と回答者の属性

			小学校 (5年)		中学校 (2年)	
			実数 (人)	比率 (%)	実数 (人)	比率 (%)
学校数			58	100.0	29	100.0
児 童	県 別	北海道	268	16.1	379	22.0
		島根	154	9.3	65	3.8
		広島	884	53.1	800	46.5
		沖縄	358	21.5	476	27.7
性 別	男	828	51.0	855	50.6	
	女	795	49.0	834	49.4	
生 徒	学 級 規 模	7人以下	39	2.3	0	0.0
		8-12人	50	3.0	0	0.0
		13-20人	208	12.5	66	3.8
		21-25人	263	15.8	138	8.0
		26-30人	431	25.9	79	4.6
		31-35人	352	21.2	849	49.4
		36-40人	321	19.3	588	34.2
小計			1,664	100.0	1,720	100.0

Ⅲ TTと少人数学習の実施状況

表2からTTの授業を受けたことのある児童生徒は、小学校で4分の3程度、中学校では90%近い。一方、少人数学習指導は、小学校児童の半数以上、中学校では80%以上にもなっている。

教科別にみると、TTは小学校、中学校とも算数・数学でよく採用され、小学校では英語、体育、中学校では英語、国語、理科が多い。これに対して、少人数学習指導は、小学校では算数が圧倒的に多く、国語、理科の順、中学校でも数学が最も多く、英語、国語の順となっている。なお、中学校では、第7次計画で実施教科となっている理科での採用は少ない。

表2 TTと少人数学習の経験：教科別

		実数 (人)				比率 (%)			
		TT		少人数学習		TT		少人数学習	
		小	中	小	中	小	中	小	中
今年、受けた		1,209	1,478	766	1,314	74.3	88.6	54.5	82.7
教科 (受けた者について。複数回答)	国語	80	177	111	235	6.6	12.0	14.5	17.9
	社会	12	133	—	—	1.0	9.0	—	—
	算数/数学	855	847	721	1,070	70.7	57.3	94.1	81.4
	理科	43	199	65	69	3.6	13.5	8.5	5.3
	英語	479	1,147	9	724	39.6	77.6	1.2	55.1
	保健体育	369	166	—	—	30.5	11.2	—	—
	その他	—	—	45	363	—	—	5.5	27.6

表3は、都道府県別及び学級規模別にTTと少人数学習の実施状況を見たものである。これによると、小学校、中学校とも、TTも少人数学習も、小規模学級ではあまり行われていない。詳細に見ると、TTは13人以上の学級で、少人数学習指導は21人以上の学級でよく実施されていることが判る。

表3 TTと少人数学習の経験：都道府県別、学級規模別 (%)

		TT		少人数学習	
		小学校	中学校	小学校	中学校
都道府県	北海道	89.1	94.7	11.2	59.0
	島根県	94.2	67.7	98.0	42.9
	広島県	77.1	89.3	42.5	90.4
	沖縄県	46.3	85.1	97.1	93.0
学級規模	12人以下	37.9	—	0.0	—
	13-20人	51.2	87.7	9.0	34.4
	21-25人	96.9	96.4	70.4	93.1
	26-30人	83.8	96.1	72.8	98.7
	31-35人	71.7	92.2	46.8	78.5
	36人以上	70.4	80.1	69.8	90.3

1. TTの実施状況

以降の分析では、TT及び少人数学習の授業を受けたことのある児童生徒の集計結果を示す。表4から、小学校では、TTは、「主+個別指導」、すなわち一人の教師が主に授業をリードし、一人が机間を回りながら児童生徒に個別指導をするタイプが最も多く、全体の半数以上を占めている。中学校では「主+補助」すなわち、一人の教師が主に授業をリードし、一人がその補助を行うタイプが最も多い。なお小学校・中学校ともに「主+主」のケースは少なかった。

表4 TTの指導の類型：学校種別

		実数(人)		比率(%)	
		小学校	中学校	小学校	中学校
主 + 主	1. 二人の先生が交代で授業を進めている	73	167	6.7	12.7
主 + 補助	2. 一人が授業をすすめ、もう一人はその手伝いをしている	427	604	39.4	46.1
主+個別指導	3. 一人が授業をすすめ、もう一人は子どもに教えている	584	540	53.9	41.2
計		1,084	1,311	100.0	100.0

表5A TTの指導の類型：小学校教科別(%)

		国語	算数	理科	英語	体育
主 + 主	二人の先生が交代で授業を進めている	2.8	5.9	21.2	7.8	6.2
主 + 補助	一人が授業をすすめ、もう一人はその手伝い	46.5	27.4	18.2	49.6	44.8
主 + 個別	一人が授業をすすめ、もう一人は子どもに教えている	50.7	66.7	60.6	42.6	49.0
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5Aは小学校のみに注目し、TT指導の類型を教科別にみたものである。これによると、英語を除く4教科(国語、算数、理科、体育)では「一人が授業を進め、もう一人は子どもに教えている」ケースが半数以上を占め、なかでも算数と理科では6割を越えている。教科別には、国語、算数・数学、理科では、「主+個別指導」が多く、英語と体育では「主+補助」が多い。

表5B TTの指導の類型：中学校教科別(%)

		国語	数学	理科	英語	体育
主 + 主	二人の先生が交代で授業を進めている	8.7	8.9	5.5	14.5	12.7
主 + 補助	一人が授業をすすめ、もう一人はその手伝い	38.5	37.1	42.5	51.7	64.0
主 + 個別	一人が授業をすすめ、もう一人は子どもに教えている	52.8	54.0	51.9	33.8	23.3
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5Bは中学校に注目し、先と同様にTT指導の類型を教科別にみたものである。これによると、国語、数学、理科では、「一人が授業を進め、もう一人は子どもに教えている」ケースが全体の半数以上を占めるのに対して、英語、体育では「一人が授業を進め、もう一人はその手伝いをしている」ケースが半数を占めている。

2. 少人数学習指導の実施状況

表6 少人数学習指導の類型

		実数 (人)		比率 (%)	
		小学校	中学校	小学校	中学校
1. 学級からグループへの分かれ方					
	いつものクラスが2つのグループに分かれた	675	1,054	88.1	77.9
	他のクラスの人と混じったグループに分かれた	99	299	12.9	22.1
2. グループに分かれた期間					
	1年間ずっと	177	546	23.1	39.5
	学期の間だけ	89	443	11.6	32.0
	一つの单元だけ	513	395	67.0	28.5
3. グループへの分かれ方の原理					
	めいぼ順に分かれた (またはくじ引き)	135	259	20.9	24.3
	勉強の難しさによって、分かれた (基礎・発展など)	432	632	67.0	59.3
	勉強する内容によって、分かれた (興味あるテーマ)	78	175	12.1	16.4
4. グループの決め方					
	自分の考えで決めた	258	496	37.1	40.0
	先生と相談をして決めた	78	60	11.2	4.8
	先生から言われた	359	683	51.7	55.1

表6は少人数学習指導の実際を詳細にみるため、1. 学級からグループへの分かれ方、2. グループに分かれた期間、3. グループへの分かれ方の原理、4. グループの決め方について検討したものである。まず、「1. 学級からグループへの分かれ方」についてみてみよう。「いつものクラスが2つのグループに分かれた」とは、所属する学級を分割して行う「学級分割型」であり、また「他のクラスの人と混じったグループに分かれた」は、所属学級を解体する「学級解体型」である。小学校、中学校とも、全体としては「学級分割型」が多いが、中学校の方がやや「学級解体型」が多いようである。

次に「グループに分かれた期間」をみてみよう。小学校では单元ごとにグループ分けがなされる傾向が強く、比較的短期間の編成を繰り返していることが分かる。これに対して、中学校では、年間を通して、あるいは学期中といった、比較的長期間の編成であった。

さらに「3. グループの分かれ方の原理」を検討したところ、小学校・中学校ともに「勉強の難しさによって分かれた」と答える者が6割前後であった。すなわち、習熟度による編成である。なお、「4. グループの決め方」については、小学校、中学校ともに「先生から言われた」と答えるケースが半数以上を占めている。

それでは、以下、表7から表10にかけて、これまでに述べた少人数学習の指導類型が教科(国語、算数・数学、理科、英語)によってどのように異なるかを検討しよう。

表7 学級から少人数学習集団への分かれ方：教科別（％）

			国 語	算数・数学	理 科	英 語
小学校	1	いつものクラスが2つのグループに分かれた	91.0	89.0	92.3	88.9
	2	他のクラスの人と混じったグループに分かれた	8.1	11.4	9.2	11.1
中学校	1	いつものクラスが2つのグループに分かれた	94.4	98.6	93.9	97.9
	2	他のクラスの人と混じったグループに分かれた	25.6	38.9	77.8	23.0

（注：計が100%にならないのは、無回答や重複回答のため。以下同様）

まず表7から、小学校では、いずれの教科についても「いつものクラスが2つのグループに分かれた」という「学級分割型」の編成が圧倒的に多く、ほぼ9割前後の者が回答している。これに対して中学校では、小学校と同様に学級分割型の編成が圧倒的多数を占めている。しかしその一方で、「他のクラスの人と混じったグループ」、すなわち学級解体型の編成も、小学校に比べ、比較的多くみられる。なかでも理科では77.8%の者が、「学級解体型」の編成で授業を受けている。

表8 少人数学習集団の継続期間：教科別（％）

			国 語	算数・数学	理 科	英 語
小学校	1	1年間ずっと	67.6	24.1	36.9	22.2
	2	学期の間だけ	7.2	11.7	9.2	33.3
	3	一つの单元だけ	23.4	66.4	49.2	44.4
中学校	1	1年間ずっと	50.3	69.3	92.7	62.2
	2	学期の間だけ	56.3	64.4	73.9	57.7
	3	一つの单元だけ	37.5	59.1	75.0	36.9

表8は少人数学習集団の継続期間を示している。ここには教科によるばらつきが見られる。小学校の場合、国語は年間を通した編成、算数は单元ごとの編成が主流であった。その一方で、理科と英語は「1年間ずっと」と「1つの单元だけ」に回答がばらつく傾向がみられた。

これに対して、中学校は大きく傾向が異なっている。まず国語では「1年間ずっと」「学期の間だけ」というケースが全体の半数以上を占めている。数学では、年間、学期、单元ごとのいずれの編成方法も比率が高く、全体の6割前後となっている。理科では、他の教科に比べ、特異な傾向がみられた。年間を通した編成が9割を越えているのと同時に、学期中、单元ごとといった編成も7割以上に及ぶ。英語は、年間もしくは学期中という、比較的長期に及ぶ編成が多いようである。

表9 少人数学習集団への分かれ方の原理：教科別（％）

			国 語	算数・数学	理 科	英 語
小学校	1	めいば順に分かれた（またはくじ引き）	71.8	20.9	42.4	33.3
	2	勉強の難しさによって、分かれた（基礎・発展など）	5.8	70.4	3.4	16.7
	3	勉強する内容によって、分かれた（興味あるテーマ）	22.3	8.7	54.2	50.0
中学校	1	めいば順に分かれた（またはくじ引き）	14.0	25.9	46.7	19.6
	2	勉強の難しさによって、分かれた（基礎・発展など）	65.5	63.2	8.3	72.7
	3	勉強する内容によって、分かれた（興味あるテーマ）	20.5	10.9	45.0	7.7

少人数学習集団の分かれ方の原理は、小学校の場合、教科による差がみられた。まず国語では、約7割が「名簿順、またはくじ引き」、算数では「勉強の難しさ」によって分かれており、理科と英語では約半数が「勉強する内容（興味あるテーマ）」で分かれていた。

いっぽう、中学校では、国語、数学、理科において「勉強の難しさ」で分かれるケースが多く、全体の約6割から7割を占めている。これに対して理科では「名簿順」「勉強の内容」に基づく編成にばらつく傾向がみられ、それぞれ4割強であった。

表10 少人数学習集団の決め方：教科別（％）

			国 語	算数・数学	理 科	英 語
小学校	1	自分の考えで決めた	14.0	36.2	37.1	11.1
	2	先生と相談をして決めた	6.5	10.9	12.9	44.4
	3	先生から言われた	79.4	52.9	50.0	44.4
中学校	1	自分の考えで決めた	64.4	34.6	44.4	43.7
	2	先生と相談をして決めた	6.7	5.0	7.9	4.5
	3	先生から言われた	28.8	60.4	47.6	51.7

それでは、少人数学習のグループはどのようにして決まるのだろうか。小学校の場合、教科によるばらつきが見られるが、概ね「先生から言われ」てグループが決まる傾向が多い。たとえば国語では約8割、算数と理科では約半数の者が「先生から言われた」と回答している。

いっぽう、中学校では、特に数学、理科、英語において「先生から言われ」る場合と「自分の考えで決め」る場合とに二極化する傾向がみられる。

IV TTと少人数学習に対する児童生徒の受け止めの比較

1. TTと少人数学習の比較

児童生徒は、TTと少人数学習に対して、それぞれどのような印象を抱き、また評価しているのだろうか。表11～表13はこのことを検討したものである。

まずTTと少人数学習に対する児童生徒の評価を校種ごとに検討してみよう。表11の共通項目の「その授業は好きである」から「授業に集中しやすい」までに注目し、それぞれの数値を小学校、中学校ごとに比較した。全体として、児童・生徒とも、半数以上の者がTT、少人数学習のいずれについても、肯定的に評価していることが分かる。

しかし、TTと少人数学習を比較してみると、TTよりも少人数学習を肯定的に評価していることが分かる。小学校と中学校を比較すると、中学校の方が少人数学習を肯定的に評価している。「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計％を比較すると、中学校では、「その授業が好きである」について数字を見ると、TTは64.5%であるのに対して、少人数学習では80.1%となっており、TTよりも少人数学習が15ポイント以上も高い。同様に、「その授業は楽しい」については、中学校のTTは55.1%に対して、少人数学習は71.9%と高くなっている。

同様に、TTよりも少人数学習が10ポイント以上高くなっている項目は、「授業の内容が

よくわかる」「質問がしやすい」「自分の興味関心にそった勉強ができる」「いつもより難しい内容の勉強ができる」「授業に集中しやすい」となっている。

小学校の場合、TTよりも少人数学習の方を10ポイント以上肯定的に評価している項目は、「質問がしやすい」と「授業に集中しやすい」の2つがある。逆に「いつもの担任の先生でないと話が通じにくい」「授業中のんびりできない」といった否定的な評価に係る項目については、TTの方で高くなっている。

表11 TTと少人数学習の受け止め：「よく」＋「すこし」の合計%

		TT		少人数学習	
		小学校	中学校	小学校	中学校
共通	その授業は好きである	73.0	64.5	79.0	80.1
	その授業は楽しい	68.8	55.1	71.4	71.9
	授業の内容がいつもよりよくわかる	74.9	59.9	79.2	77.0
	質問がしやすい	56.5	61.6	69.7	71.6
	わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	71.5	68.9	72.3	70.3
	自分の興味や関心にそった勉強ができる	56.0	41.3	65.7	55.8
	いつもより難しい内容の勉強ができる	54.9	35.0	61.3	48.1
	クラスのふんいきがよくなる	62.8	46.7	58.0	49.9
	授業に集中しやすい	61.2	51.0	74.4	72.3
	担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	40.4	24.0	27.2	16.2
TT	授業中、のんびりできない	46.4	43.1	38.6	32.7
	先生が多いので、落ち着かない	28.0	29.6	—	—
少人数	いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	—	—	41.0	32.8
	授業の人数が少なすぎて、活気がない	—	—	26.0	23.6

表12は、小学校の国語と算数について、TTと少人数学習を比較した結果である。先の表11と同様、国語、算数とも、TTよりも少人数学習の方に肯定的な評価が多くみられた。なかでも、「質問がしやすい」「自分の興味や関心に沿った勉強ができる」「授業に集中しやすい」といった項目では、ほぼ10ポイントの差で少人数学習の方が高く評価されている。

逆に否定的な設問（「いつもの担任の先生でないと話が通じにくい」「授業中のんびりできない」）については、TTの方が「よくあてはまる」「とてもあてはまる」と答える者の比率が高かった。

表13では中学生のみを取り上げ、国語、数学、理科、英語の4教科についてTTと少人数学習の受け止めを比較した。いずれの教科においても、少人数学習の方が肯定的に評価されている。「その授業は好きである」「その授業は楽しい」「授業の内容がいつもよりよくわかる」および「いつもより難しい内容の勉強ができる」「授業に集中しやすい」の5つの項目で、少人数学習の方が10ポイント以上も高く肯定的に評価されている。

表12 TTと少人数学習の受け止め（小学校教科別）：「よく」＋「すこし」の合計%

	国 語		算 数	
	TT	少人数	TT	少人数
その授業は好きである	68.8	69.4	73.7	79.7
その授業は楽しい	63.8	66.7	69.4	72.1
授業の内容がいつもよりよくわかる	66.3	70.4	76.3	80.4
質問がしやすい	43.8	61.8	57.8	70.0
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	58.8	70.9	72.4	71.9
自分の興味や関心にそった勉強ができる	47.5	64.5	55.7	65.6
いつもより難しい内容の勉強ができる	51.3	60.9	56.9	62.0
クラスのふんいきがよくなる	65.0	59.5	61.4	58.5
授業に集中しやすい	51.3	67.0	62.1	75.0
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	48.1	41.3	38.0	27.1
授業中、のんびりできない	54.4	37.6	48.4	39.3
先生が多いので、落ち着かない	29.1	—	27.9	—
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	—	39.4	—	42.5
授業の人数が少なすぎて、活気がない	—	30.9	—	26.0

表13 TTと少人数学習の受け止め（中学校教科別）：「よく」＋「すこし」あてはまるの合計%

	国 語		数 学		理 科		英 語	
	TT	少人数	TT	少人数	TT	少人数	TT	少人数
その授業は好きである	68.4	81.3	65.1	80.4	60.3	76.8	66.1	80.7
その授業は楽しい	56.5	73.2	53.0	72.6	48.7	75.4	57.6	70.7
授業の内容がいつもよりよくわかる	61.6	74.7	62.6	79.1	55.1	86.8	59.9	77.4
質問がしやすい	70.1	71.5	66.2	73.5	61.1	72.5	62.0	71.7
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	70.6	65.4	71.3	71.7	68.3	84.1	68.2	69.8
自分の興味や関心にそった勉強ができる	41.5	52.3	40.6	55.8	42.7	69.6	42.4	51.8
いつもより難しい内容の勉強ができる	32.8	42.6	34.2	48.6	37.9	58.0	34.9	45.8
クラスのふんいきがよくなる	42.9	45.3	41.5	50.5	37.7	52.9	48.9	49.6
授業に集中しやすい	51.7	72.2	50.8	74.4	47.0	72.1	51.8	73.8
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	18.1	15.7	21.1	16.1	31.0	19.1	24.2	15.0
授業中、のんびりできない	49.2	38.7	43.8	33.5	47.4	30.9	41.9	32.6
先生が多いので、落ち着かない	38.4	—	28.3	—	40.1	—	29.3	—
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	—	36.3	—	34.5	—	44.1	—	33.8
授業の人数が少なすぎて、活気がない	—	22.6	—	23.5	—	30.9	—	24.2

表12と13を比較すると、改めて、中学校における少人数学習の教育的効果が高いことが明らかである。なお、TTに対する評価が少人数学習のそれを上回っているのは、「授業中のんびりできない」の1項目くらいであった。

2. 少人数学習における集団編成の影響

少人数学習指導では、HRの集団から、どのようなタイプの少人数学習集団を編成するかという重要な問題が少なくとも4つある。第1に学級を解体する原理（「学級分割型」「学級解体型」）の違いである。1学級40人までの学級集団を単純に2つの少人数学習集団に分割する、または2学級を3つの学習集団に分割し、HRを解体するという選択肢がある。前者では分割後もHRの集団構造が半ば維持され、少人数学習から一斉学習に戻る際にもHRの集団構造がすぐ回復する。後者の場合、各学級の児童生徒は、最大3つの少人数学習集団に所属し、一斉学習に戻る際には、3つの少人数学習集団の出身者からHRが構成されることになる。後者の場合、HRと少人数学習集団の関係は複雑である。一斉学習と小集団学習を学期中に併用して指導する場合、両者のスムーズな移行が難しいと思われる。

第2は編成された少人数学習集団の継続期間（「1年間」「1学期」「1単元」）の問題である。非常勤講師の手当の費用や教員配置の問題で、1学期間しか少人数による学習指導を行えない学校もある。あるいは試行中のため、1単元分しか実施できない学校もある。

第3の問題は、どのような原理で少人数学習集団を編成するか、等質の少人数学級集団とするか（等質集団）、発展・基礎コースなど習熟度別に編成するか（習熟度別編成）、あるいはテーマ別・課題別に編成するか（テーマ別編成）という選択肢がある。

第4の問題は、児童生徒を少人数学習集団へ配属するにあたって、生徒の希望により配属集団を決定するのか、教員が配属集団を指示するのか、あるいは児童生徒と教員が相談して決めるのか、という問題がある。

以下、この順に分析結果を示すが、表中の数値は、いずれも各設問に対して「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」と回答した者の比率を足しあわせたものである。

表14 少人数学習の受け止め（集団への分かれ方別）：「よく」＋「すこし」の合計%

	小学校		中学校	
	学級分割	学級解体	学級分割	学級解体
その授業は好きである	78.9	79.8	80.2	81.2
その授業は楽しい	71.3	69.7	70.6	75.2
授業の内容がいつもよりよくわかる	78.6	80.8	76.8	77.4
質問がしやすい	68.6	73.7	72.9	67.7
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	71.7	78.8	70.3	71.5
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.6	70.7	53.8	63.8
いつもより難しい内容の勉強ができる	60.4	66.7	46.7	52.3
クラスのふんいきがよくなる	57.6	62.6	48.9	53.4
授業に集中しやすい	73.9	76.3	72.6	70.2
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	26.9	25.8	15.8	18.2
授業中、のんびりできない	38.5	37.1	32.8	30.4
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	42.0	27.8	33.6	26.8
授業の人数が少なすぎて、活気がない	25.5	25.5	24.5	19.2

表14では、1学級を2つのグループに分けた「学級分割型」と2学級3集団や3学級4集

団などの「学級解体型」を比較したものである。数値を比較すると、小学生、中学生ともに大差のある項目は少ない。小学校の場合、10%以上の差がある項目は「いつものクラスの友達と勉強ができず残念だ」だけである。学級分割型で42.0%、学級解体型で27.8%となっている。中学生の場合、「自分の興味や関心にそった勉強ができる」という項目だけが、「学級解体型」の数字が高く、評価が高いことが判る。

なお表15は、算数・数学の授業だけに注目し、校種別に集団編成の違いによる効果を比較したものである。およそ表14と同様の結果である。このことから、全体として、「学級分割型」と「学級解体型」との間に顕著な違いは見られないと判断してよいと思われる。

それでは、少人数学習指導の継続期間は、児童生徒の受け止めとどのような関係にあるだろうか。表16はこのことを示している。小学生の場合、「1年間」もしくは「1学期間」と、比較的長期間のグループを経験した者ほど、少人数学習に対して肯定的な反応が見られた。10%以上の差がある項目は「その授業は好きである」であった。これに対して中学校では、10%以上の差がある項目はみられなかった。

表15 少人数学習の受け止め（算数・数学のみ）（集団への分かれ方別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小 学 校		中 学 校	
	学級分割	学級解体	学級分割	学級解体
その授業は好きである	79.7	82.9	79.9	83.4
その授業は楽しい	72.3	72.0	71.4	75.6
授業の内容がいつもよりよくわかる	79.8	85.4	78.3	80.4
質問がしやすい	69.2	74.4	73.7	71.6
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	71.6	76.8	71.2	75.2
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.6	68.3	54.5	62.0
いつもより難しい内容の勉強ができる	61.1	70.7	47.5	51.7
クラスのふんいきがよくなる	57.9	63.4	49.6	53.9
授業に集中しやすい	74.7	80.0	74.1	73.4
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	27.0	23.7	15.2	21.6
授業中、のんびりできない	39.1	37.5	33.0	33.2
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	43.4	30.9	34.8	29.4
授業の人数が少なすぎて、活気がない	25.5	28.0	24.2	19.0

先と同様に表17は算数・数学の授業のみに注目した結果である。これによると、小学校で「クラスの雰囲気がよくなる」という項目だけが10%の差で「1年間」の評価が高い。これに対して、中学校では大差がないことが判る。このように、少人数学習指導の継続期間を校種別に検討したところ、小学校では比較的長期間にわたって実施することが効果的であるが、全体として大差はないと言えよう。

次に、「等質集団」「習熟度」「テーマ別」と言った、少人数学習集団編成原理の違いによる効果を検討しよう。表18は全体の、表19は算数・数学のみについて示したものである。いずれも、小学生の場合、「テーマ別」の集団を経験した者ほど、比較的肯定的な反応が多く見られた。しかしまた「いつもの先生でないと話が通じにくい」など否定的な反応もある。

これに対して中学生では「習熟度別」編成と「テーマ別」編成にやや肯定的な反応が多く見られる。さらに、「等質」集団編成を経験している者は、他の集団編成よりも、「授業中のんびりできない」「いつものクラスの友達と勉強できず残念だ」など否定的な反応が見られる。

表16 少人数学習の受け止め（集団の継続時間別）：「よく」＋「すこし」の合計％

	小学校			中学校		
	1年間	1学期	1単元	1年間	1学期	1単元
その授業は好きである	75.7	86.2	79.7	80.6	77.9	81.5
その授業は楽しい	75.1	77.3	70.1	69.0	71.8	75.4
授業の内容がいつもよりよくわかる	81.6	81.6	78.8	76.4	76.6	78.9
質問がしやすい	68.2	67.8	70.3	69.8	72.9	70.9
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	76.6	69.8	71.1	70.3	68.9	71.2
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.1	68.2	64.7	53.1	52.1	60.3
いつもより難しい内容の勉強ができる	60.6	71.8	59.5	46.2	47.0	51.4
クラスのふんいきがよくなる	64.9	56.3	56.1	48.3	50.0	49.1
授業に集中しやすい	78.0	72.4	73.8	72.0	70.6	75.3
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	30.8	29.1	24.0	16.7	17.0	13.5
授業中、のんびりできない	35.5	40.0	39.1	33.6	31.6	29.9
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	48.0	41.4	39.3	33.8	32.0	32.1
授業の人数が少なすぎて、活気がない	24.6	32.2	24.8	24.9	23.1	21.9

表17 少人数学習の受け止め（算数・数学）（集団の継続時間別）：「よく」＋「すこし」合計％

	小学校			中学校		
	1年間	1学期	1単元	1年間	1学期	1単元
その授業は好きである	75.9	85.4	80.8	80.5	78.8	81.8
その授業は楽しい	75.3	77.1	71.1	70.5	72.7	75.4
授業の内容がいつもよりよくわかる	81.4	82.9	80.3	77.9	80.2	80.6
質問がしやすい	68.4	68.3	70.7	71.3	76.2	71.8
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	76.3	67.9	70.7	71.5	71.0	72.2
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.3	68.7	64.3	54.2	51.2	59.5
いつもより難しい内容の勉強ができる	60.7	73.8	60.1	47.7	45.6	52.8
クラスのふんいきがよくなる	64.9	54.9	56.8	49.3	50.1	49.7
授業に集中しやすい	78.0	73.2	74.8	73.7	74.1	76.4
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	30.4	29.6	24.0	16.8	16.6	13.2
授業中、のんびりできない	35.7	42.5	40.0	34.1	32.0	31.0
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	48.3	43.9	41.3	34.7	34.8	33.4
授業の人数が少なすぎて、活気がない	24.7	31.7	25.1	23.7	24.2	22.2

表18 少人数学習の受け止め（少人数学習集団の編成原理別）：「よく」＋「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	等 質	習熟度別	テーマ別	等 質	習熟度別	テーマ別
その授業は好きである	75.6	78.9	75.6	76.4	82.0	76.6
その授業は楽しい	74.8	70.4	63.6	68.7	72.0	76.0
授業の内容がいつもよりよくわかる	78.0	80.2	67.9	75.3	80.0	73.6
質問がしやすい	67.4	69.8	71.8	73.3	72.9	66.3
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	74.1	69.9	75.6	69.8	69.8	72.3
自分の興味や関心にそった勉強ができる	68.7	63.3	69.2	52.5	53.7	73.7
いつもより難しい内容の勉強ができる	58.5	58.6	66.7	42.6	51.0	49.7
クラスのふんいきがよくなる	63.2	56.4	63.6	46.3	51.0	52.9
授業に集中しやすい	76.2	71.8	73.1	71.0	73.5	68.0
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	34.8	24.2	40.3	17.0	16.7	12.6
授業中、のんびりできない	36.1	37.4	46.2	38.8	31.8	27.0
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	44.4	40.9	39.0	39.4	31.9	22.7
授業の人数が少なすぎて、活気がない	26.3	25.5	35.9	26.3	23.4	20.1

表19 少人数学習の受け止め（算数・数学）（少人数学習集団の編成原理別）：「よく」＋「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	等 質	習熟度別	テーマ別	等 質	習熟度別	テーマ別
その授業は好きである	75.6	78.9	83.0	76.8	81.9	73.1
その授業は楽しい	74.8	70.3	71.2	69.5	73.0	75.3
授業の内容がいつもよりよくわかる	78.2	80.0	77.4	79.1	80.3	76.3
質問がしやすい	67.7	69.7	75.5	75.8	73.1	69.9
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	74.0	69.6	77.4	70.8	70.2	79.1
自分の興味や関心にそった勉強ができる	70.6	63.1	66.0	53.2	54.7	74.2
いつもより難しい内容の勉強ができる	58.3	59.0	73.6	42.9	51.3	50.5
クラスのふんいきがよくなる	63.2	56.4	69.2	47.7	51.9	51.6
授業に集中しやすい	76.6	72.0	77.4	75.5	73.1	70.3
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	33.6	24.4	46.2	18.2	15.4	15.1
授業中、のんびりできない	37.3	37.5	50.9	39.3	31.6	30.1
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	45.7	41.1	50.0	41.4	32.3	25.0
授業の人数が少なすぎて、活気がない	25.2	25.8	39.6	25.5	22.8	21.5

最後に、小集団への配属が児童生徒の希望によるものか、教師の指示によるものか、あるいは両者の相談を経て決まるものかという違いに注目しよう。表20をみると、小学生は、「生徒の希望で配属」した集団を経験している者の方が、概ね肯定的な反応を示している。これに対して中学生は、「教師との相談による配属」による集団を経験している者の方が、概ね肯定的な反応を示している。これは、算数・数学のみに注目した表21でも同様の結果であった。

表20 少人数学習の受け止め（集団への配属方法別）：「よく」＋「すこし」の合計%

	小 学 校			中 学 校		
	生徒希望	相 談	教師指示	生徒希望	相 談	教師指示
その授業は好きである	80.5	74.4	77.4	81.7	81.7	77.6
その授業は楽しい	66.5	69.2	74.1	71.4	76.7	71.2
授業の内容がいつもよりよくわかる	81.3	71.4	78.9	77.7	80.0	76.1
質問がしやすい	73.0	66.7	67.7	71.3	63.3	72.4
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	75.1	69.2	70.0	70.2	64.4	70.5
自分の興味や関心にそった勉強ができる	66.8	62.8	65.8	57.7	51.7	55.1
いつもより難しい内容の勉強ができる	68.0	55.8	56.7	48.0	58.3	47.9
クラスのふんいきがよくなる	56.4	52.6	60.1	48.9	62.7	49.4
授業に集中しやすい	83.7	61.8	69.3	69.0	79.7	73.7
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	23.9	35.5	28.2	14.5	26.7	17.0
授業中、のんびりできない	36.0	45.3	39.6	32.1	36.7	33.1
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	40.0	44.9	42.0	26.3	35.0	37.0
授業の人数が少なすぎて、活気がない	26.7	32.1	24.8	20.2	28.3	26.0

表21 少人数学習の受け止め（算数・数学）（集団への配属方法別）：「よく」＋「すこし」の合計%

	小 学 校			中 学 校		
	生徒希望	相 談	教師指示	生徒希望	相 談	教師指示
その授業は好きである	81.6	77.8	77.5	82.1	86.0	77.2
その授業は楽しい	67.4	73.6	74.1	72.6	78.0	71.3
授業の内容がいつもよりよくわかる	82.4	74.6	79.5	80.6	82.0	77.6
質問がしやすい	73.1	69.4	67.8	74.0	70.0	73.3
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	74.5	68.1	70.5	72.3	71.4	70.9
自分の興味や関心にそった勉強ができる	66.0	63.9	66.2	58.3	56.0	54.6
いつもより難しい内容の勉強ができる	69.3	57.7	56.9	49.4	62.0	47.8
クラスのふんいきがよくなる	56.5	55.6	60.6	50.4	69.4	49.1
授業に集中しやすい	84.7	64.3	69.7	71.9	83.7	74.6
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	23.5	35.7	28.3	13.5	30.0	17.1
授業中、のんびりできない	35.6	47.8	40.2	34.5	36.0	33.2
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	41.8	47.2	42.4	27.9	34.0	38.4
授業の人数が少なすぎて、活気がない	26.8	31.9	24.8	20.5	28.0	25.7

V おわりに

以上の分析結果をまとめ、若干の考察を加えてみよう。まずTTと少人数学習の実施状況を見ると、TTは小学校、中学校ともに実施率が高く、日常の学習指導の方法として定着していることが伺える。いっぽう、少人数学習の実施率は校種の違いが大きく、小学校では半数以上、中学校では80%以上であった。このことは学級規模によっても著しい違いがあり、TTは13人

以上の学級で、少人数学習は21人以上の学級で実施されており、小規模学級ではあまり行われていない。さらに教科による違いも大きい。TT、少人数学習は、小学校、中学校とも、算数・数学及び英語で多く採用されている。

今回の分析結果のみから推測することは困難であるが、TTにせよ、少人数学習指導にせよ、その担い手を既存の教員数を変えずに実現しようとする場合と、一定の加配や補充によって実現する場合とでは、その運用と効果に大きな差が現れるものと思われる。TTと少人数指導という方法論が持つ理念以上に、こうした運用に係る問題を、その効果に対する不確定要素として適切に把握することが今後の課題となろう。なお、こうした問題に係る分析の一部は、全国の校長及び教員を対象とした調査による「全国の小中学校における少人数学習の実施状況」（日本教育社会学会第57回大会2005年9月17日）として報告している。

次にTTと少人数学習に対する児童生徒の受け止め方の違いについて検討しよう。全体として児童生徒はTTも少人数学習も肯定的に評価しており、どちらかと言えば少人数学習の評価の方が高い。しかし校種別に検討したところ、小学生よりも中学生の方が少人数学習を肯定的に評価していた。さらに教科別に検討したところ、中学生は4教科のすべてにおいてTTよりも少人数学習を評価していた。

なぜ、中学生は小学生よりも少人数学習を評価しているのだろうか。ひとつには、教師側の学習指導に及ぼす効果の問題があるだろう。すなわちクラスサイズの規模縮小は、教師にとって効率の良い指導を可能にしていると考えられる。TTの場合はHRをそのまま使い、学習集団の規模に変化が無い場合、メインティーチャー+サブティーチャーという2人体制であっても、往々にして一斉授業の形態を免れず、ひとりひとりの子どもの学習に目を注ぐことや、個別の学習の進度や理解度を見極めながら進めることが困難なのかもしれない。

いまひとつの理由は、児童生徒の学習モラルに関わることである。同じくクラスサイズの規模縮小によって教師の目が行き届きやすくなるために、児童生徒は学習に向き合う構えや意欲を育む機会が増えることになる。これまでは大勢の前で手を挙げることのできなかった子ども達に発言の機会が増えたり、誤りを恐れずに発言できる機会が増えたりすることは、少人数であるが故の効果であろう。

このように考えると、少人数学習における集団編成の方法、すなわち「学級分割型」と「学級解体型」との間に、あるいは集団編成の原理、すなわち「等質集団による編成」「習熟度別編成」「テーマ・課題別編成」との間に顕著な差が見られなかった理由も、ある程度、納得が行く。むしろ、こうした少人数学習集団の編成上の問題は、指導する教師の側にとって、少人数学習の理念やその効果を実りのあるものとするために、一定の試行錯誤を要する課題である。しかし、受け止める児童生徒の側から見れば、こうした編成方法や原理の問題以上に、少人数であることが学習への意欲を高める結果をもたらしているものと解釈する方が妥当であろう。

もちろん、こうした編成方法や原理の問題を過小評価すべきだと言うのではない。より根本的な問題として、本調査の質問文自体が、児童生徒にとって区別を付けにくいものであった可能性や、現実の少人数学習集団の編成に際して、児童生徒がこうした編成方法・原理の違いをどこまでの確に把握していたかといったことについては、研究デザインの修正も含めて、今後検討を要する課題となろう。

なお、少人数学習集団の編成について、「テーマ・課題別」の編成方法が「等質集団編成」や「習熟度別編成」よりも児童生徒に評価される傾向にあったこと、さらには配属集団の決定に関して、特に中学生が「教師との相談による配属」を肯定的に評価していることについては、その実態も踏まえた検証が今後必要と思われる。

参考文献

- 岡田典子・山崎博敏・田中春彦（2000）「戦後における小中学校の学級規模の縮小－教職員配置改善計画の政策効果分析」『広島大学教育学部紀要』第三部、第49号、39－48頁。
- 世羅博昭・山崎博敏・田中春彦ほか（2001）『学級規模の教育的効果に関する調査研究』平成11年度～平成12年度科学研究費補助金基盤研究（C）（1）研究成果報告書。
- 山崎博敏・水野考・藤井宣彰ほか（2006）「全国の小中学校における少人数教育とチーム・ティーチングの実施状況：2004年全国校長・教員調査報告」広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター紀要『学校教育実践学研究』第12巻、73－84頁。

なお、本稿は科学研究費補助金（基盤研究(B)）「学級規模が授業と学校生活に与える影響に関する比較社会学的研究」（研究代表者：山崎博敏 課題番号：16330165）の一部であり、日本教育学会第65回大会（於：東北大学）の発表資料に加筆修正したものである。